

# 「原発再稼働阻止」に向けて、 知恵と力をさらけに出し合いましょー！

小川 正治



9月15日、関西電力大飯原発4号機が停まり、「原発ゼロの日」がまた始まりました。

日本の原発は1965年に初めて商業運転に入りましたが、1970年、当時2基しかなかった原発が2基とも検査のために停止しました。それ以来42年ぶりで昨年5月5日「原発ゼロの日」を迎えたのです。実に画期的なことでした。しかし福島事故直後から、政府・電力業界は再稼働にむけて、着々と準備をすすめてきました。3月末の緊急対策の実施指示、7月のストレステスト審査の導入、12月16日の野田首相（当時）による福島事故収束宣言、昨年3月の原子力安全委員会による大飯3・4号機のストレステスト1次審査の妥当性了解。そして関係閣僚会議で関西電力管内の夏の電力不足を理由に、「暫定安全基準」なるものをでつち上げ、その対策実施を条件に大飯再稼働を認めたのは、昨年4月13日のことでした。

「大飯の乱」  
「再稼働阻止」の闘いも、首相官邸前の金曜日行動をはじめ、原発地元や大都市圏そして全国で大きく進められました。ここでは、

昨年前半の大飯原発をめぐる闘いを中心に少し振り返ってみます。

昨年2月滋賀県大津市で「大飯原発3・4号機の運転再開を止めよう！ 2月4日関西びわこ集会&デモ」が全国から500名を越す参加者と170を超える協賛団体のもとで開かれました。関西の命の水ガメ、びわ湖畔からは、大飯30km圏内にある滋賀県高島町の雪をいただいた比良の山並みが望めます。多くの女性と子どもたちにあふれた集会と関西電力大津支社包囲のヒューマンチェーンは、熱気に満ちたものでした。3月25日は福井市で「大飯原発3・4号機の『再稼働』に慎重な判断を求める市民集会」が約700人で開かれました。中野哲演さん（県民会議代表）は、「ここが一点突破されれば全国各地でなし崩し的に再稼働される。決して再稼働を認めることはできない」と、強い決意を述べ、福井県庁ロビーで断食に入りました。

そして衝撃的だったのは、おおい町「原発再稼働反対監視テント」でした。4月9日、5月6日の第1次（大島地区）、5月22日、7月18日の第2次（総合運動公園）と長期にわたる「監視テント」の存在は、地元の人びとに

様々な反響を呼び起こすとともに、全国から若い家族や個人が駆けつけ、ピーク時には70近いテントが張られるようになりました。並行して福島の女性がおおい町をたびたび訪れ、福島の現実を直接伝えるとともに、関西や首都圏からも参加して、5月に地元懇談会（大島地区、美浜住民集会（小浜）、そして「もう一つの住民説明会」（おおい）と、「原発のないまち」を目指した住民対話と戸別チラシ配布の行動が続けられました。また4月14日の福井県庁への枝野説明に対する抗議や4月26日の「おおい町民説明会」に参加する人たちの激励行動、福井県専門委員会の傍聴や県庁・県議会・おおい町への申し入れなど、実に様々な行動が展開されました。

そして6月30日、大飯原発の再稼働を阻止する闘いは、大きな山場を迎えます。若者を中心に700人を超える人たちが、県内・関西・首都圏そして全国各地から集まってきました。「テント常駐組のごちゃまぜ感」は凄まじかった。

[9・15 もう動かすな原発！ 福井集会]（2013年9月15日、福井中央公園）オープニングミュージック風景





サヨク思想や、学生運動の流れの人、アーティスト、普通の人、ベジタリアン、肉食添加物絶対拒否派、活動家、謎の人、そして、生意気なくそガキ。みんな、肩書きとかそんなものを捨てて、人と人として対話をしていた」と報告されています（よねはらかんた、『オキユパイ大飯の乱』）。そして同日午後、大飯原発ゲート前は関電・警察隊と対峙する人たちのシユプレヒコール、空をつんざく音響や座り込みなどによって完全にオキユパイされる状態となりました。後に「大飯の乱」と呼ばれるこの闘いは、2日早朝にはゴミ一つ残すことなく見事に撤収。力強く、鮮やかなそして清々しさを感ぜさせる闘いでもありました。

高揚した闘いにも拘らず、海路、大飯原発に入った牧野経産副大臣（当時）立会いの下で大飯再稼働を許してしまい、昨年の「原発ゼロの日」は2ヵ月足らずで終わりました。

このような闘いの中から、全国の力をさらに結合させ、知恵と力をおしみなく出し合う運動づくりが必要だという声が一層高まりました。そして「たんぼぼ舎」「経産省前テントひろば」「再稼働反対！全国アクション」「反原発自治体議員・市民連盟」と

「ストップ大飯再稼働現地アクション」の東西5団体の呼びかけで、東京での相談会（7月）や松山での準備会（8月）などを重ね、「再稼働阻止」その一点に結集軸を置いた運動体として昨年11月、中島哲演さんや鎌田慧さんから7名を共同代表にした「再稼働阻止全国ネットワーク」が結成されました。

### 「再稼働阻止全国ネットワーク」の活動

昨年9月、原子力規制委員会・原子力規制庁が正式発足し、とんでもない速さで新規制基準と防災計画改定の策定作業が進められました。私たちは規制委本会議や専門委員会の傍聴、内容批判と申し入れ行動、パブコメ対応などに忙殺される毎日でしたが、12月の「もんじゅ廃炉・大飯抗議現地行動」、今年1月の全国合宿（東京）、4月の全国交流会と志賀原発抗議行動（羽咋、全国11ヵ所からの28名を含む70名）、5月の柏崎刈羽交流ツアー（東京からバス2台。福島や大間など各地から多数参加）など、「再稼働の嵐」に抗する全国規模の陣形強化にむけて活動を積み重ねてきました。

しかし、本来なら3〜5年はかかると規制委員自らが語った「新規制基準」は7月に施行され、泊・大飯・高浜・伊方・玄海・川内原発の再稼働申請が一斉に出されました。私たちは、東京での抗議行動とともにこの夏、伊方・大飯・泊・川内での現地行動と討論合宿を通じて、連携を強める行動をしてきました。また秋から年内、泊・全九州（福岡・伊方・

もんじゅと高浜・川内での現地行動に繰り返し参加していきます。

### 連帯と意思表示の力を信じよう

さて東電と規制当局の意図的な対策放置の中で、福島第1原発の高濃度放射能汚染水が海・環境への漏洩と流出が日々拡大しています。さらに安倍首相は「港湾内0.3kmの範囲内に完全にブロックされている」という啞然とする国際的大ウソをつき、「いのちより金」という安倍政権の本性をむき出しにしました。紙幅の関係でこれ以上触れませんが、「再稼働審査を直ちに止めて、汚染水対策に専念せよ！」と規制庁・東電への抗議行動を他団体と連携して一層進めていきます。

最後に「八幡浜 原発から子どもを守る会」の斎間淳子さんのメッセージを伝えます。「一人でもどんな形でも再稼働に反対という意思表示を続けることが重要です。お金も権力もない私たちにとって、共に反対の声を上げる仲間がいるという連帯感が一番力強いのですから」（9月13日の規制庁の現地調査抗議行動を前に、9月6日付メール）。

約45年間、伊方原発の建設・運転に一貫して反対し行動されている斎間さんの言葉を胸に、「再稼働阻止」の闘いを全国のみなさんと共に進めていきましょう。

（おがわよしはる／「再稼働阻止全国ネットワーク」事務局メンバー、写真は筆者提供）